

『子どもの自立を促すために』

つい最近まで、赤ちゃんだった子どもたち。何もできないと思っていたら、急にいろいろなことができるようになって、びっくりすることはありませんか？

子どもには、今まで大人にしてもらっていたことを自分一人で行おうとする時期があります。そんな時が、子どもの自立を促すチャンスです！子どもが自分でやってみようという気持ちになってチャレンジしているのに、時間がかかってしまいつい大人が手を出してしまいがちです。危ないことやまわりに迷惑がかかること以外だったら、時間の許す限り子ども自身にさせてあげましょう。子どもが一人でできないことがあったときにすぐに大人が手を出すのではなく、まずは黙って子どもの様子を見守ることも子育てにとっては大事なことです。

何でも大人が先取りすると、子どもは大人がしてくれることに安心してしまい、自分で行おうという気持ちが育ちにくくなります。「まだ小さいからできない」「上手にできないから」と思うのではなく、できることを子どもにさせる機会を与えていくことも必要です。

たとえば、靴や帽子を含め衣服の着脱をすることや、食事を自分で食べるなどの生活習慣を身に付けることは、子どもにとって生きていくために必要なことです。子どもの姿を見ながら、できるだけ子どもがやりたいと思えるように言葉をかけて、促していきましょう。

どうしてもできないことやうまくいかないことがあったら大人が少しだけ手伝ってあげて、子どもができるようにやり方を教えてあげるといいです。そしてそんなとき、「〇〇ちゃん、頑張ったね」「一人でできたね」「すごいね」などのほめる言葉をかけてあげましょう。子どもは満足して、また次回も自分で頑張ろうという気持ちになります。そういう体験の積み重ねをしていくうちに子どもは自信を持って他のことにもチャレンジし、だんだん大人が手伝わなくてもできることが増えて自立していきます。

元気づくり課子育て支援センター

☎ (919) 6001